

平成27年9月28日

各位

岩手大学農学部共同獣医学科
教授選考委員会
委員長 佐藤 れえ子

臨床獣医学分野産業動物臨床学教授候補者の公募について

謹啓

初秋の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、岩手大学農学部では教授候補者を下記により公募することになりました。つきましては、貴機関に適切な候補者がおられましたなら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。

なお、貴機関以外の方でも適任と思われる方がおられましたならば、ご推挙いただければ幸甚に存じます。

敬白

記

1. 公募する教員の職名及び人数

臨床獣医学分野 産業動物臨床学 教授 1名

2. 分野の概要及び職務の内容

臨床獣医学分野は、産業動物臨床領域として繁殖機能制御学、産業動物内科学及び産業動物臨床学の3つの教育分野、小動物臨床領域として小動物病態内科学、小動物病態診断学、小動物外科学及び画像診断学の4つの教育分野からなり、今回の公募は、産業動物臨床学を担当する教授を充足するためのものです。

主たる担当科目は、産業動物臨床学Ⅰ・Ⅱ、動物衛生学・同実習（分担）、大動物臨床実習、総合参加型臨床実習及び全学共通科目（分担）などです。

なお、平成24年4月より岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科が設置されたため、同学科の教育も担当することになります。

3. 選考方針

今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。

- 1) 人格・識見に優れ、学部学生及び大学院生の教育・研究指導並びに地域貢献に意欲のある者
- 2) 博士の学位を有し、産業動物臨床学に関する広範な知識と研究能力を備え、優れた研究業績を挙げている者
- 3) 日本国の獣医師免許を有し、附属動物病院における診療業務に参画できる者

岩手大学は男女共同参画を推進しています。

業績及び資格等に係わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。

産前産後休暇、育児休業及び介護休業を取得していた場合（性別は問わない）には、選考の過程で考慮します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については岩手大学ホームページ（www.iwate-u.ac.jp/gender/）をご覧ください。

4. 提出書類

- 1) 履歴書 1部（写真貼付、署名、捺印のあるもの。Eメールアドレスも記載して下さい）
- 2) 研究業績目録 1部（様式は別紙または岩手大学ホームページを参照下さい）
- 3) 主要論文別刷 10編以内
- 4) 教育研究に対する抱負 1部（1,000字程度）
- 5) 推薦者がある場合は推薦状、あるいは人物照会が可能な方の連絡先（様式自由）

5. 面接

選考過程において応募者の来訪を求め、面接などを実施することがあります。その際の旅費等の経費は自己負担になります。

6. 提出期限

平成27年10月26日（月）必着

7. 採用予定日

平成28年4月1日

8. 提出先（問い合わせ先）

〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-8

岩手大学農学部共同獣医学科

教授選考委員会

委員長 佐藤 れえ子

Tel & Fax: 019-621-6227

e-mail: reekos@iwate-u.ac.jp

教員応募書類在中と朱書きし、簡易書留で郵送して下さい。

なお、応募書類は原則として返却いたしません。

以上

「研究業績」の作成について(2007.4)

農学部教員人事委員会

「研究業績」の作成について(2007.4) 農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*₁、(b) 紀要*₂、(c) プロシーディングス、E. その他*₃、F. 報告書・事業報告書等*₄、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*₅、I. 国内学会発表*₅の順に、下記 の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度(日本語の場合フォントのサイズは10.5～12程度)にしてください。

*1: 学会誌、国際誌等を年代順に記載する。

*2: 試験場報告、研究所報告等を含む。

*3: 商業雑誌、資料等に記載する。

*4: 調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。

*5: 最近5カ年について記載する。(教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要)

*6: 著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。

*7: 英文で著者名に記載する場合は、下記のようにする。

1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

*8: 学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。

*9: 論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド(太字)とする。

*10: Journal は略記する。

*11: 発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎(単著)(1990)

農学について. ○○出版社, 東京, 100p.

2. 岩手一郎(分担執筆)(1991)

北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.

3. 岩手一郎(分担翻訳)(1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆)(1993)

Agriculture in Japan, 『Agricultural Sciences』(Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎(1980)

XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士(◇◇学) ○○大学]

2. 岩手一郎(1983)

ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士(◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎(1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No3:1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎(1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15:215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎(1985) 岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5:15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986) Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20:100-105.
3. Iwate, I. (1990) Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25:15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎(1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17:30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995) Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1990)
北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No125:pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1993)
イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告(△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎(1993)
イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表(最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)
Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表(最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎(1997)
岩手の野生動物. 第 100 回日本野生動物学会講演要旨:25-26.

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等に記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
 1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」 (A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences" (Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.